



## 産地活性化にむけて

墨 明・艶金興業（株）社長



### 会社概要

- 業務内容 染色整理
- 創業 明治22年
- 資本金 2億5000万円
- 従業員 350名
- 本社 愛知県尾西市小信中島字南九反11-1
- 工場等 起工場、津島工場、木曾川工場、岐阜事業部、海外事業部、墨総合研究所
- 商標 SM

艶金興業は墨字吉翁が明治22年に創業した名門企業。大正8年にはドイツ人技師を指導員として招聘するなど、早くから世界の先端技術を導入してきた。墨明さんはこの伝統と技術を引き継ぐ、艶金グループの当主。日本毛整理協会の会長として、業界の現局面打開に辣腕をふるっている。グループには艶金化学繊維、ツヤキントラスト、中日本倉庫、ツヤック、サーモダイナミックスを擁している。

社長方針は「自己革新」、「顧客尊重」、「日々挑戦」であるが、同社の歴史はこの連続だった。初期のドイツ人技師の招聘はもとより、その後の圧巻はシンクタンクである墨総合研究所の設立（昭和50年）である。バイオ、環境、テクノロジー情報などを総合的に推進する同研究所は、尾州産地の発展に現在も大きく貢献している。墨さんの「企業は社会的存在」という発言には実績を踏まえた重みがある。

艶金興業の工場群は加工商品別に専門化されている。主な工場を紹介しよう。起工場は「紳士服地を中心」で、超高級品仕上げのダイヤモンド加工は広く知られている。津島工場は「ウールの無地やポリエステル・綿混、麻など幅広く対応」している。フォーマル向けのスーパーブラック加工は「超黒」加工として受注が集中している。木曾川工場は「ニット及び婦人織物」で、ポリウレタン混のストレッチ仕上げは得意中の得意であり、高い評価を得ている。

墨さんは業界リーダーとして最近、川中部門の自立が強く求められている中で、尾州が核となるべくマーケットインした上でプロダクトアウトする必要がある。そして、産地総下請意識から脱却し、機能不全状態の分業化から毛工連がまとめられた「産地再生改革アクションプラン」の一部にもあるように、協業化を目指すことが不可欠と指摘している。同社は、数年前より産地・他地域メーカー、紡績に加えデザイナー参画の下、共同で素材開発を行い、年2回の展示会を通じてアパレル・コンバーターへの発信を試みている。今後、輪を拡げ、インフラが充実している尾州地域が世界に通用する産地として再生すべく活動している。

